

かみやまだいだいお かぐら
「上山田太々御神楽」

- 指 定 千曲市指定無形民俗文化財 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 有 者 上山田神楽保存会
- 概 要 神楽芸能
- 祭 日 上山田温泉夏祭りなど

江戸の中期に入り、現在の千曲市八幡中原地区やわたなかはらより洗練された「中原の獅子舞」が伝えられ今日に至っているといわれています。

中原地区の古老の話によると、江戸時代中期に街道を通じて関東方面から移入された「丸一代神楽の雄獅子の舞い」で、安永年間あんえい（1772～1781）、八幡宮の大頭祭はちまんぐう だいとうさいに中原組大神楽の奉納記録があります。その後天保年間てんぽう（1830～1844）の後期、中原の和田酒造わだしゅぞうの和田正成氏が、中原宿に泊まり合わせた甲州の神楽師宮下惣蔵みやしたそうぞう氏兄弟を移り住まわせて、当時の若者に教えさせ、その後、雌獅子へ変化していったと推察されています。

上山田地区における神楽舞いは、神社のお祭りの際の奉納行事として盛んになり、平和と五穀豊穰ごこくほうじょうを願い盛んに行われてきましたが、太平洋戦争の拡大により縮小し中断されていきました。戦後の混乱期から徐々に落ち着きを取り戻し、経済の成長とともに神楽も復活の気運が高まり、昭和 46 年に神楽保存会が結成され、後継者の育成につとめ現在に至っています。

